

10804石油製品・石炭製品製造業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起 因 物 (小)	労働 者規 模
1	2017	10	14～ 15	トイレの清掃中、個室に入ろうとした時、足が滑り段差につまずき転倒した。胸と足を骨折し、人工関節のゆるみが進行した。	68	2	413	50～ 99
2	2017	10	9～ 10	建設資材を搬入するベルトコンベア終端部で、ベルトを稼働させて調節している時、ベルコン端部に資材のカスが付着しているのが気になり、調整用のスパナで除去していたが、細部がスパナでは取りきれなかったため、右手でベルコンの下のカスを除去しようとした際、右手人差し指と中指を、幅1センチ程度のすき間に挟まれて、裂傷、骨折した。	64	7	224	1～9
3	2017	8	14～ 15	午前中は当社工場内で通常の仕事をし、午後からは炎天下で、工場外の草刈りした草をまとめフォークリフトで焼却場に持っていく作業をし、しばらくして交代して草刈りを始めた。その後10分位で気分が悪くなり、事務所へ戻り、給水場で飲み物を飲もうとしたところ、容態が悪くなり、熱痙攣らしい症状を起こして倒れ、救急車で病院へ運ばれた。	42	11	715	30～ 49
4	2017	8	0～1	本体スチーム洗浄後に点検し、点検デッキより猿梯子で降りるとき、手すりに握りにくい部位があったためバランスを崩して転落し（約1.5～2m）、背中と腰を強打した。	30	1	371	300～ 499
5	2017	7	8～9	第一製造工場内において、フォークリフトで用意したパレット積み原料ドラム2本（1本230kg）を降ろす際、ドラムを斜目に押した時、腰に激痛が走った。	43	19	611	30～ 49

14	2016	11	22～ 23	金型整備室で金型組立作業中に、金型とフレームの組み合わせが悪く、金型をホイストのフックで引っ掛け、15cm程吊り上げた状態で原因を調べていたところ、フックが外れ、金型とフレームの間で左手の中指と薬指を挟んだ。	32	4	211	1～9
15	2016	9	1～2	アスファルト合材を製造する為の骨材を砕石投入口から投入する為、4トンダンプで投入口進入路の坂道をバックで上がったが、投入口が暗かった為、ダンプに乗ったまま進入路入口まで乗り、ブレーキを踏み、入口脇の照明スイッチを押そうと運転席の窓から右手を出したところ、地面が砂利道であった為にスリップしてダンプが止まらなかった為、とっさに右斜め前にあった鉄柱に右手を当てて止めようとしたところ、右肘に強い力がかかり、右肘関節を圧迫骨折負傷する。	50	3	221	1～9
16	2016	8	8～9	工場建屋内で作業中、次の工程の段取りを考えながら、つい小走りに走っていて足がもつれて転倒した。その際、左手をつき、左手首を骨折した。	57	2	921	30～ 49
17	2016	8	13～ 14	倉庫入ってすぐのところにある食堂に行こうとした時、倉庫内から後退してきたフォークリフトに接触し、リフト後輪に右足甲を踏まれた。	19	6	222	10～ 29
18	2016	8	16～ 17	建屋の電気室において、電気設備定期点検の完了確認を行っていた。被災者は停電範囲の遮断機のシーケンステストを実施中、通電中の系統と接地中の系統を高圧断路器で接続した。その際、発生した短絡アークの放射熱によって熱傷を負った。	37	11	352	100～ 299
19	2016	7	11～ 12	潤滑油工場内2階の空ドラムストッカーで発生したエラーを復旧しようとストッカー上段に上り作業後、降りようとしたときに転落し、頭を設備にぶつけて裂傷。	56	1	379	30～ 49
			13～	カレンダー作業中にレザーの中肉を車引きのコンベアにのせる際に、基布とビニールを貼りあわせる等の所で回転してい				50～

20	2016	7	14	るシャフトに作業服が巻き込まれて、手も巻きこまれ負傷した。	22	7	169	99
21	2016	6	12～ 13	エアゾール充填室入口付近でエアゾール缶をパレットにのせてパレッターで搬入し、一時保管場所へ荷おろしをしていた時、荷物を持った状態でパレッターに足が引っかかり体勢を崩して転倒した。	54	2	362	50～ 99
22	2016	5	9～ 10	栈橋でロープを掛ける作業の際、ロープが被災者の右下腿脛に当たった。	34	6	379	50～ 99
23	2016	2	13～ 14	フィーダー整備の為、1名でフィーダーを設備の手前に押し出す作業を実施した。フィーダー可動用の架台レールは水平にセットされている為にピンにて固定されているものと思込み、フィーダーがスイング式レール上に乗ったところで固定ピンが外れ、架台レールがフィーダーごと作業側側に落下、挫傷および切創した。	45	7	169	100～ 299
24	2016	2	7～8	プラント構内でホッパーのシート掛けを終え、コールドビン前を歩行中、ショベルで除雪したての滑りやすい路面で足を滑らせ転倒し、左足を負傷した。	29	2	719	1～9
25	2016	1	9～ 10	コークス製造機械にて、被災者が成形機底部に溜った石炭を、成形機を起動し払い出し、その後成形機を停止した後に点検口に手を入れ、成形機底部にある排出羽根に右手指先を挟まれ、負傷した。	50	7	169	10～ 29
26	2016	1	14～ 15	再生プラント下の砂上げをしている際に、手元が狂い、手前の柱にスコップの先が当たり鉾先が変わり、持っていた左手の小指がスコップの持ち手と柱の間に挟まれた形で怪我をした。	29	7	364	100～ 299
				4tトラック荷台上で、積載貨物である車両用オイル200L入りドラム缶を荷台から下へ降ろす為、ドラム缶を傾けて荷台前				

27	2015	11	14～ 15	から後方へ移動させる作業中、1本目は異常なく作業終了し、2本目のドラム缶を引っ張ったところ、周囲のドラム缶に引っ掛かり再度強い力で引っ張ったところ、勢いが強くドラム缶が早く傾き、体を後ろへ退避させることが出来ずドラム缶とともに転倒し負傷した。	58	6	611	10～ 29
28	2015	10	14～ 15	工場内でドライヤーの修理中にドライヤーリングの変摩耗を修正するため、砥石を取り付けて運転していた。被災者が稼働中、一人で状況確認に行くと、側面に金属バリが発生しているのを確認した。バリを除去しようと、ドライヤーを停止させず研磨作業を一人で行っていたところ、左手を滑らせローラー部に左人差し指中指を挟み負傷した。	60	7	163	1～9
29	2015	10	22～ 23	合材工場敷地内のアスファルト設置場にて、手作業で殻等の仕分けをしていたところ、仕分け作業の前まで使用していたショベルカーを、本来アームを下ろしておくべきところをうっかり上がったままの状態、アスファルト殻の山に駐機していたため、不安定な状態のショベルカーが滑り降りてきて、両足の甲をひかれて負傷した。	51	5	141	1～9
30	2015	8	13～ 14	現場のケースを倉庫へ取りに行き、薄暗い中で空ケースを取ろうとした時に肩ポケットのペンが落ちて振り返ったところ、フォークリフトが通り右足を轢かれ骨折した。	39	7	222	30～ 49
31	2015	7	16～ 17	間接脱硫装置において、「リッチADIPフラッシュドラム」にて、槽上部に溜まった油分をスキミングする作業を行っていた。当該作業では、油を閉鎖系に切り捨てた後、開放系に切り替えて油分がなくなったことを確認するものであるが、開放系に切り替え作業を行っていたところ倒れた。	61	12	519	500～ 999
32	2015	4	10～ 11	事務所1階の裏出口付近で、被災者がトイレから裏出口に出ようとし、右足を地面についたとき、泥除けマットから足を踏み外した。	40	1	418	1～9

33	2015	4	16～ 17	事務所に用事があって立ち寄り、玄関右側にある階段を登ろうとした時、階段につまずき転倒した。	38	2	413	50～ 99
34	2015	2	11～ 12	事務所内で机に着席して事務仕事中に、顧客からの電話があり、問い合わせ内容を確認するため、事務所窓口へ起立し移動しようとしたところ、床に足を滑らせ転倒し、手をつく間もなく、顔面を床に強打した。	47	2	416	1～9
35	2015	2	17～ 18	工場内、常温合材製造機で注文に基づき運転作業に従事し、不定期だが、ホッパー内（深さ平均2m）に付着固化した材料を清掃する必要があり、工程上、一時停止するホッパー内のスクリュウの運転スイッチを切ったと思い込み、ホッパー内に入り、道具を用いて固化した材料を除く作業中、スクリュウが回転を始めたため、両足先端をまき込まれた。	22	7	169	1～9
36	2015	2	8～9	構内において、製造1課建屋3階ペレット室でペレットを流す準備をしていた。ペレットを流す押し出し機を予熱するため、スチームホースを繋ぎバルブを「開」にしたとき、ホースを止めてあるバンドが外れスチームを両足に浴び負傷した。	53	11	715	100～ 299
37	2015	1	11～ 12	プラント内でミキサーのベアリング交換中に発生、作業中にベアリング交換に支障になるミキサー内のアスファルト合材のカスを落す為、手元の電磁弁でミキサーゲートを開けようとした時、開いて来たミキサーゲートで左足を挟む。	45	7	162	1～9
38	2014	11	11～ 12	溶剤精製装置 1 F ポンプ室にて着圧発信器導圧清掃作業時、高さ約 1 m の配管上で作業を終え、床の歩廊へ降りる際、歩廊に足を下ろしたが歩廊の角に足を踏み外したため、体勢を崩し転倒し右足を負傷した。	36	2	419	10000 ～
39	2014	11	10～	現場にて、トラック（アームロール）おりばいじんの荷降ろしを行い、完全に終えたかを確認しようとキャビンを降りる際に、ハンドルを持ってステップに足を掛けた際に足を踏み	63	1	221	50～

			11	外して尻もちをつくように転落し、腰を圧迫骨折致しました。				99
40	2014	11	10～ 11	廃油回収先において、トラックから降りようと路面に足をついたところ激痛に襲われた。作業を中断し、無理をしながらも帰社して休んでいたが、痛みが引かないため救急搬送された。作業内容に不安全・有害なものは見当たらないように思われる。	44	3	221	1～9
41	2014	10	10～ 11	コークス2炉炉上で燃焼室底部温度測定作業中、#193F底部温度を測定しようとして廃ガス期に18穴フリー蓋を2段階で開放した（火炎の噴き上げがなし）その後、燃焼室底部温度測定中（数秒後）両足大腿部が熱いと感じ当該場所から離れたが、燃焼室からの火炎噴き上げにより被災し火傷した。#193F廃熱弁スピンドルとチェーンを接続している固定金具（シャッフル）のピンが自然に外れ、廃熱弁が閉まり燃焼室内が圧迫状態となり底部温度測定の開口部より火炎が噴き上がった。	42	11	341	500～ 999
42	2014	10	10～ 11	高温炉用トラバーサーを引っ張りながら移動させる時に、右足をトラバーサーに差し込む治具とトラバーサーの間に置いた状態で移動させたため、差し込み治具とトラバーサーの間に右足首を挟まれ負傷した。	40	7	363	0
43	2014	10	12～ 13	6階から5階へ階段を降りていた時に前方から人が階段を上ってきたため、右側に避けた際思ったよりも壁に近づきすぎてしまったので軌道修正しようと左斜め前に踏み出したところ階段の段差の始まりの場所でバランスが取れずそのまま落下して左肩と左足を打撲した。	25	1	413	100～ 299
44	2014	9	15～	工場のダンプ待機場所でアスファルトのダンプ配送準備中に、ダンプの荷台に油を塗っていた為靴に油が付着して足を	51	1	221	1～9

			16	滑らせ、高さ1.5mのダンプの荷台から地面に転落して左足の母指の爪に受傷した。				
45	2014	8	14～ 15	骨材サイロ下集合ベルコン部シュートの修理に保護カバーを外して取りかかった。合材出荷のためプラントを起動させることを本人に連絡し起動開始。集合ベルコンプリーに砂が付着しており蛇行していたため、砂を除去し蛇行を直そうとして左腕を巻き込まれた。	42	7	121	1～9
46	2014	5	14～ 15	ブタジエン製造装置循環系溶剤に蓄積するタール分（160℃）のドラム缶への払い出し作業中、ドラム缶上部の給油口から発泡したタール分が飛散し、取り外そうとした給油口の蓋を持っていた右手及び右側顔面にかかり、熱傷を負った。	51	4	514	100～ 299
47	2014	2	10～ 11	工場において、ベルトコンベアの稼働点検中、ベルト内部にあった鉄筋くず等を取り払おうと右手を差し入れたら巻き込まれキャリアローラーに挟まれた。	56	7	224	10～ 29
48	2014	2	6～7	雪のため倉庫の屋根が破損したので製品の濡れを防ぐため、製品にシート掛け作業中、屋根の崩落の危険を感じ製品の上から飛び降りた際、右足を強打し内出血した。	48	1	611	10～ 29
49	2014	2	16～ 17	屋外の植物油タンクから屋内の計量タンクに植物油を移送中、移送用ギアポンプの作動が不調だったので、ゴムベルトを右手で押したとき、巻き込まれて人差し指の先端を切断した。	52	7	391	10000 ～
50	2014	1	11～ 12	プラントにてドラムリフターで吊り上げたドラム（重さ90kg）を地面に下ろす作業中、ドラム天板側を下から手で押し上げ、ドラムを傾けた時にフックが外れて右足甲に落下し骨折した。	46	4	372	30～ 49
				製油所内、U1 棧橋、着棧中の船上甲板通路上において、荷上げ予定前に本船船室内に移動中、足がもつれて転倒した模				

51	2014	1	12～ 13	様。本人に転倒した原因の覚えははっきりしておらず、近くにいた者が転倒後の本人を発見。右目上部切傷、左手と両足の感覚が鈍く立位困難、意識は清明。公設及びレスキューにより船上より担架を使用し、その後救急搬送となる。	66	2	239	300～ 499
52	2014	1	18～ 19	木質バイオマスプラントにおいて、作業員2人でのポンプストレーナーの清掃作業終了間際、別の作業員が他の作業の為その場を離れ、その間に被災者がストレーナーの蓋（約10kg）を持ち上げ、点検口を復旧しようとしたところ、手が滑りその反動で蓋と配管に右手人差指を挟み裂傷した。	27	7	521	50～ 99
53	2013	11	16～ 17	ダンプの荷台にて、荷を確認している際、車が揺れた為、荷台から飛び降りたところ、足を骨折した。	58	1	221	10～ 29
54	2013	11	10～ 11	高さ3.6m上のベルトコンベヤ足場上にて、清掃作業中、再稼動したベルトコンベヤに誤って足を引っ掛け、バランスを崩し、転落した。	42	1	224	1～9
55	2013	11	16～ 17	回収した廃油の不純物を取り除く遠心分離から白煙が上がっていた為、緊急停止処理の手順をとっていたところ、爆発が発生、爆発火災に巻き込まれ、死亡した。	52	14	512	100～ 299
56	2013	9	14～ 15	潤滑油製品自動充填設備のロボットパレタイザー(自動積み付けロボット)の調整テスト中、積み付けるペール缶(約20kg)を両手に持ち運んだところ、肩を痛めた。	38	19	611	100～ 299
57	2013	8	20～ 21	記載なし	23	2	391	100～ 299
58	2013	7	8～9	プラスチック成形中、プラスチック性チューブ(径5mm)が引き取りベルトに巻き込まれた為、チューブを取ろうとして手をベルト近くまで伸ばしたところ、ベルトで手人差指を挟まれた。	52	7	169	30～ 49
59	2013	7	8～9	段差のある床に台車(約1m×80cm×高さ4cm)がバランスを	64	2	362	30～

				くずし、転倒。手を着き、手首を骨折、頭部を強打した。				49
60	2013	7	5~6	製品抜取中、ろ過する為のカートリッジフィルターを乾燥する際、配管を接続し、窒素バルブを開け、本体に近づいたところ、フィルターの出口バルブが全閉でドレンバルブが半開であった為、上部の蓋が耐え切れず、吹き飛び、被災者の顔面に当たった。	20	4	391	100~ 299
61	2013	6	16~ 17	ローソク切断機のストッパーを手で押さえ、もう一方の手でローソクを押さえながら切断している際、切断機の刃が手親指に当たった。	40	8	169	10~ 29
62	2013	6	3~4	重ねて保管しているフレコンバッグが傾いた為、ワイヤーを用いて吊り上げ作業をしていた際、フレコンバッグの近くに被災者が立ち、指示していたところ、吊り上げていたワイヤーが外れ、フレコンバッグが被災者の足に落下した。	42	4	611	30~ 49
63	2013	5	11~ 12	外航船の荷役準備中、操作場からデッキへ飛び降りようとしたところ、操作場に足が引っかかり、バランスを崩し、転落。脇腹を船上のアンクルに打ち、肋骨骨折した。	39	1	239	100~ 299
64	2013	4	10~ 11	所定の場所に荷降ろし後、そのまま荷台を降ろすことなく走行中、荷台が上がったままであったため、設置してあった道路の大型電光掲示板（高さ5.2m）に荷台が激突。、掲示板を押し倒し、ダンプは歩道に乗り上げ、停止した。	66	3	221	10~ 29
65	2013	4	9~ 10	消防車両を使った放水訓練時、低反動ノズル筒先からの放水を担当していた。開始直後、ホースに振られ筒先を持ったまま横によろめき、後方に倒れ、脇腹付近をコンクリート面に強打した。	61	2	169	30~ 49
66	2013	3	9~ 10	調合タンクの作業架台から床へ降りる際、足首を捻った。	32	19	416	50~ 99
				被災者は、押出機運転手より「消火電車がタイムオーバーで				

67	2013	2	6~7	停止した」との無線連絡を受け、消火車に乗り込もうとした。この直前、コントロールセンターにて当該消火電車タイムオーバー解除操作を実施していたため、当該消火電車が動き始め、乗り込み中の被災者は手摺にぶら下がった状態となり、5m下の消火車道へ飛び降り、足を骨折した。	54	1	223	300~ 499
68	2013	2	9~ 10	始業前点検にて、カバーを取り外したままでグリスアップを行った際、皮手袋が引っかかり、手を巻き込まれた。	27	7	129	10~ 29
69	2013	1	11~ 12	資材在庫保管棚からロール紙を台車へ移す作業をしている際、腰を痛めた。	31	19	921	100~ 299
70	2013	1	14~ 15	ベルトコンベア歩廊上にて、見廻り中、シュート内部を覗こうと腕を伸ばしたところ、親指がベルトに接触。指を引き込まれ、腕を骨折した。	19	7	224	10~ 29
71	2013	1	10~ 11	混合所構内の道路にて、融雪剤を一輪車から撒いていたところ、滑り、手、腕を強打し、腕を骨折した。	63	2	417	1~9
72	2012	11	15~ 16	ホッパーの中に入り点検中、回転部以外の足を乗せられる部分に足を掛け、寸動指示を出したところ、足を巻き込まれた。	61	7	162	10~ 29
73	2012	11	11~ 12	ドラム周辺を清掃するため、水ホースを手に持ち高さ40cmの配管を跨ごうとした際、足が配管に引っ掛かり転倒し、肩を強打した。	60	2	391	500~ 999
74	2012	10	14~ 15	点検終了後、導通作業に使用した水圧ポンプを持ち、地上に降りる途中、1.2mの高さで一回水圧ポンプを置こうとした際、足を滑らせ転落した。その際、地上0.4mにあった配管に股間を強打し、尿道を損傷した。	57	1	418	300~ 499
75	2012	10	10~ 11	リサイクル材を運搬するため、重機(油圧式タイヤショベル)を操作中、コンクリートの塊に乗り上げ、車輛がバランスを崩し、ドアとコンクリートの塊に足を挟まれ、足指先を負傷	62	2	141	10~ 29

				した。				
76	2012	8	10～ 11	試験室にて、作業中、オイル缶に入った加熱したアスファルトをすくおうと柄杓を入れたところ、引火し、飛散したアスファルトが半身にかかり、火傷した。	35	11	519	1～9
77	2012	8	13～ 14	原反をセットした際、シャフトを通し、治具で固定し、架台に原反を載せようとシャフトを架台側に移動したところ、完全に固定されておらず、原反が落下。シャフトが跳ね上がり、支えていた手の中指を負傷した。	57	6	529	10～ 29
78	2012	4	15～ 16	タンクヤード内の老朽化した配管を撤去する為、脚立の3段目（81cm）に乗り作業中、既設の配管上を越す為、切除した配管を手で持ち、引き抜こうとした際、配管の荷重に振られ、バランスを崩し、脚立から落ち、側の防油堤（高さ52cm、コンクリート製）に胸を打ちつけ、負傷した。	58	1	371	50～ 99
79	2012	4	13～ 14	高圧ガス容器置場にて、容器の引き取り作業中、アスファルトの地面に寝かせてあった13本の容器を1本ずつ立てトラックに積み込む作業をしていた際、バランスを崩し、尻もちをついた。作業中の容器が内側踝あたりに倒れ、足首を地面に押しつけ、負傷した。	46	2	611	1～9
80	2012	2	9～ 10	被災者はコークス炉、炉上において燃焼室底部異物除去作業を実施していた。作業終了後に片付けをする為、吸引ホースを取り外した際、吸引ノズルより熱湯が噴出し、左腕を熱傷した。その後、すぐに病院で診断を受けたところ、肢熱傷Ⅱ度と診断された。	21	11	391	300～ 499
81	2012	2	10～ 11	洗浄廃液をダンパー車へ回収中、廃液の量を確認するため、ダンパー車のタンク上部の開けておいたハッチから、内部のレベルを確認中に倒れた（高濃度の一酸化炭素を吸い込んだため）。	51	12	514	50～ 99
				倉庫正面よりカーブして、倉庫側面にフォークリフトを移動				

82	2012	1	8～9	し、作業しようとした際、ドラム4本積みパレット2段重ねを搭載したところ、前方より来たフォークリフトと接触しそうになった。互いに急ハンドルを切ったところ、相手のフォークリフトの上段パレットのドラム4本が崩れ始め、反射的に腕を差し出したところ、腕全体でドラムの重みを受け、肩を脱臼した。	49	4	222	50～ 99
83	2012	1	9～10	屋外ポンプエリア内を歩行中、同エリア内を横断して敷設されていた廃油回収ホースに躓き、転倒。足を骨折した。尚、ポンプエリア沿いに通路があったが、ホースに躓くとは思わず近道行動をとった。	58	2	229	100～ 299
84	2011	11	9～10	原紙搬入の際、転がってきた次の原紙に気がつかず、後ろ向きの状態で右足かかと側から原紙があたり負傷した。	56	6	611	50～ 99
85	2011	11	11～12	アスファルトプラントにおいて、アスファルト合材出荷開始の際、再生材ホッパーのブルーシートを捲ろうとしたところ、足元が滑り、姿勢を崩し無理な姿勢になったため、腰を痛めた。	34	19	379	10～ 29
86	2011	10	14～15	会社内において、バッテリーフォークを踏み台にして空ドラムを降そうとして、バランスを崩し転倒。左足の小指を骨折、くるぶしの骨にヒビが入った。	73	2	222	1～9
87	2011	8	7～8	破碎ピットメインベルトコンベア下部の安全保護カバーを外し、ローラ部分に付着した粉塵を除去するため、点検しようとした際、誤って右腕をベルトコンベアに巻き込まれ負傷した。	59	7	224	10～ 29
88	2011	8	10～11	当社工場内において、長さ40cm、重量28.8kgのロール状原反を機械にセットする為に横にした際、腰を負傷した。	26	19	529	10～ 29
			9～	工場内で金型を乗せかえている時、はしごを使ってチェーン				

89	2011	6	10	ブロックを使用しようとしたところ、バランスを崩して落下し、足首を骨折した。	65	1	361	1～9
90	2011	5	15～ 16	2人で故障したポンプを中2階から2階へ運搬中、後ろ向きで階段を下りる際に足を踏み外し、体勢を崩し手で支えていたポンプを床に落としてしまった。その際、左手薬指と小指をポンプと床に挟まれた。	31	1	413	50～ 99
91	2011	5	17～ 18	被災者は、装置配管のスチームパージの状況を確認中、誤って防油堤内の排水会所にたまっていた70℃の熱水の中に足をを入れてしまった。そのため履いていた長靴内部に熱水が入り、右足首部をやけど（2度の熱傷）した。	40	11	715	500～ 999
92	2011	4	14～ 15	工場一階作業場において、石鹼の型打ち・包装作業中、人力足踏み式型打ち機の台座部分であるステンレス金型に石鹼を置き、ペダルを踏んだ際に金型部分に指先が残っていた為、指先を金型に上方向より挟まれ指先を切断した。	36	7	363	1～9
93	2011	4	14～ 15	A作業所内、破碎作業所に於いて、電動鋸を作動して合板（厚さ1cm）を切断作業中、合板を押さえていた左手を誤って電動鋸の刃に当て負傷した。	67	8	131	1～9
94	2011	3	20～ 21	コークス炉上にて上昇管トップカバー閉操作を行う為、既に位置合わせが完了し停止していた装炭車を移動するよう指示、その後移動を始めた装炭車と上昇管のすき間に入り、上昇管トップカバー開閉レバーに補助パイプを差し込み引き上げていた時、装炭車設置の炉頂クリーナーダスト回収用モーター架台フレームと補助パイプの間に右手人差指を挟まれ負傷した。	53	6	229	300～ 499
95	2011	2	22～ 23	B-7工場染料乾燥設備の本体4階ゾーン（室内）において、染料のスプレーノズルを洗浄するためしゃがんで解体作業を行っていたが、立ち上がった際に腰部に痛みが走り動けなくなった。	31	19	921	100～ 299

96	2011	2	9～ 10	事務所横の手洗い場からモービルバックのキャッチャーに水を給水し、ブロアの点検を行う為、PTOのスイッチを入れ、運転席から降り点検を行っていたところ、急にブロアから異音が聞こえたため、PTOのスイッチを切らなければと思い、運転席に戻ろうとした際、路面が凍っており、すべて転倒し、右足首の骨折となった。	36	2	417	30～ 49
97	2010	12	16～ 17	完封機にて30Φ×150lのチューブを封止作業時に、封止後のアルミチューブをチューブホルダーから取り外そうとしたら完封機の最後の工程が終了する前に取り外そうとして右手人差指第一関節から先を挟まれて肉が取れてしまった	40	7	169	50～ 99
98	2010	11	14～ 15	被災者(A)は、B工場アルミブリケット製造ラインで製品を製造中、成型機上部押込機にて原料が詰まり、ラインを止めて清掃作業を行っていた。尚、原料を片づける為にミノを使って作業を行っていた。上部に共同作業者が原料をかき出しミノに入れ、被災者に手渡し、被災者が受け取った時、右腕上腕に「プチッ」と音がし、違和感を感じた。	62	19	921	50～ 99
99	2010	10	16～ 17	弊社物流倉庫でフォークリフトの運転中2段目の棚の荷物を確認の為、本来ならばリフトで棚のパレットを下に降ろし確認しなければならないところ、フォークリフトのキャビンのフレーム部分に横着をして上がったが足を滑らせ、マストとキャビンのフレームに挟まった。	49	1	222	50～ 99
100	2010	10	15～ 16	(株)A管理課工場物流係製品倉庫で石油化学製品原料の包装作業を行っていた時に、包装製品の数量を確認するためパレタイザー上部へ行こうとコンベアー横の通路を歩行中、はざまみで傾斜コンベアーヘッドとローラーの間に右手が挟まれ負傷した。	38	7	224	30～ 49

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。